2022 年度 2 学期終業式

皆さん、おはようございます。

クリスマスが近づいてきています。カトリック教会においては 11 月 27 日の日曜日から救い主イエスのご降誕を迎えるための準備期間 待降節が始まりました。日曜日の度にろうそくの灯が 1 つずつ増えていき、12 月 18 日の日曜日には 4 本のろうそくすべてに灯がともりました。明日の日没後にはクリスマスをお祝いすることとなります。私たちはクリスマス直前の今日、2 学期の終業式を迎えています。2 学期の締めくくりにあたり、この学期と一緒に振り返ってみましょう。

2 学期は行事の多い学期でした。

9 月には所沢市民体育館で、3 年ぶりに 6 学年が一堂に会して体育祭を行うことができました。準備の段階から嬉々として動く係の皆さんの姿、そして、体育祭が終わって帰る時の喜怒哀楽入り混じりつつも充足した皆さんの表情に私たち教職員も喜びで満たされました。

10 月はじめには、中 3 が東北へ、高 2 が京都・奈良へ 2 泊 3 日の修学旅行に行き、お互いの親睦を深め、晴れやかな表情で帰って来てくれました。こちらも光塩女子学院中等科・高等科としては 3 年ぶりの実施でした。

11 月 13 日(日)には親睦会を実施できました。去年よりも多くの方をお招きし、魚つりやスピードくじ、サロンコンサートなどの人気の企画が復活しつつ、中 3 のお化け屋敷から高 1 の趣向を凝らしたゲームコーナー 3 種類、高 2 によるホスピタリティあふれる雰囲気と完成度の高い手の込んだゲームコーナー 3 種類など、去年から始まった学年企画も楽しめました。さらには、高 2 の有志企画 My Favorites も新たに実施され、皆さんの豊かなアイデアと積極性、楽しみながら奉仕の精神を実践する姿に成長を感じ心躍る一日となりました。

11 月末には皆さんお一人おひとりからの誕生日のお祝いカードをいただきました。各クラスで素敵な表紙を描いてくださった方、今、光塩生として何を楽しんでいるかを報告してくださった方、今、興味を持っていることやハマっていることを紹介してくださった方、さらには私の良いところを探して、それを伝えてくださった方。皆さんからの心温まる「ことば」のプレゼントに元気をいただきました。この場を借りて心より感謝申し上げます。

一昨日、12 月 21 日にはクリスマス会が行われました。3 年ぶりに合唱は発表会ではなくコンクール形式で実施できました。私は、はじめに中 1 の合唱を聴き始めたところから涙腺は緩みっぱなしで、最後の高 3 の合唱の時には涙をこらえるのが最も大変になりました。高 2 ・高 3 有志の方の演奏、合唱部・アンサンブル部の発表も心和む時間でした。それから、聖書研究グループによる発表、中 2 ・中 3 有志によるニーバーの祈りに基づく発表からクリスマスの意味について考え、祈る材料をいただきました。皆さんの成長する姿からとても多くの喜びを受け取りました。本当にありがとうございました。

それでは皆さんへのお礼として、ここでは、このクリスマスについて私なりに考えたことをお話したいと思います。

新約聖書マタイ福音書 1 章と 2 章には、救い主イエスの誕生の次第が書かれています。ヨセフとマリアは婚約していましたが、一緒になる前にマリアが身ごもっていることが分かりました。それで、思い悩んだヨセフはこのことを表沙汰にすることなく密かに離縁しよ

うと考えました。なぜなら、当時のイスラエルの掟では、女性が婚約者以外の人との間に子どもを身ごもり、それが人々の知るところとなると、石を投げられて死刑にされることになっていたからです。だから、ヨセフはマリアとそのお腹の中の子どもの命を守るため、密かに離縁することを考えたのです。

しかし、マリアのお腹の中にいる子は聖霊によって宿ったのだと夢でお告げがあったので、離縁するのではなくマリアとそのお腹の中の子どもを受け入れ、一緒に家族として歩んでいく道、その子どもを喜びのうちに祝福する道を選びました。もちろん母マリアも9か月間、授かった命を大切に育み喜んだので、救い主イエスの誕生が実現しました。

それから、星の光を見て救い主イエスの誕生を知った3人の博士たちは遠方から遙々旅をして、救い主イエスの誕生をお祝いするためにやって来ます。エルサレムまで来て、その地方の支配者であるヘロデ王に「救い主はどこに生まれるのか」尋ねます。ヘロデ王はその場所が分かりませんでしたので、側近の学者や主だった人たちに尋ねました。彼らは「ユダヤのベツレヘムです」と答えました。

3人の博士はベツレヘムに行けば会えると知って、喜び勇んでそれぞれがプレゼントを携えて救い主イエスのもとへ急ぎます。3人はついに可愛いらしい幼子と対面しました。その喜びはどれほど大きかったことでしょう。

ところで、ヘロデは3人の博士にその幼子に会えたら場所を教えてほしいと伝えていました。しかし、3人の博士は、ヘロデ王のところに立ち寄りたくないよう夢でお告げがあったので、ヘロデ王には会わないで自分の故郷に帰ってしまいました。ヨセフも夢でお告げがあったのでマリアとイエスを連れてエジプトに避難しました。ヘロデ王は救い主が生まれると聞いて、自分の王としての立場が危ないと考え、居場所を教えてもらったら幼子イエスを殺すつもりでいました。居場所を教えてもらえず怒ったヘロデ王は、イエスが生まれたであろう地域の2歳以下の幼子たちを皆殺しにしまいました。

この物語の中で、大きく分けて3つの立場の人がいると思います。まずは救い主イエスの誕生を喜ぶ人々、ヨセフやマリア、3人の博士があげられます。2つ目は、その誕生に関心な人々、ヘロデ王の周りにはいる学者などです。この人たちはベツレヘムに救い主イエスが生まれると知っていてもお祝いに行こうとしませんでした。その後ヘロデ王がベツレヘム周辺の2歳以下の幼子を皆殺しにする際も止めようとしませんでした。3つ目の立場はその誕生を喜ばない人、ヘロデ王です。

私たちは日々の生活の中で、この3つの立場のどれを選んでいるのでしょうか？私自身はこの3つの立場を行ったり来たりしているように思います。どれを選んだら幸せかは聞くまでもありません。しかし、私たち人間は弱い存在で、自分可愛さに自分以外のものの誕生を快く思えないことがあります。クリスマスは、救い主イエスの誕生を喜びお祝いする日。それはすべての存在の誕生を喜び祝福する日です。自分にとって快く思えない存在も、関心を持たない存在も喜び祝福するものに変える勇気を願っています。

最後に、一見快く思えない出会いや存在もすべて喜びの対象に変えてしまう方法・生き方を教えてくれる本を紹介します。エレナ・ポーター著・村岡花子訳「少女パレアナ」(角川文庫)です。是非この機会に読んでみてください。

それでは良いクリスマスと新年をお迎えください。ごきげんよう。